

南丹市地域ケア推進会議

みんなで作る地域包括ケアシステム ～遠くの身内と近くの他人が力を合わせて～

日 時：令和4年9月16日（金）13：30～15：30

場 所：日吉町生涯学習センター 遊y o uひよし

参加者：70名

対 象：民生児童委員、ふれあい委員、介護保険事業所、医療機関、地域リハビリテーション支援センター、市役所（高齢福祉課）、社会福祉協議会、包括支援センター

内 容：離れて暮らすご家族様へのアンケート結果報告

※HP リンク参照：[【離れて暮らすご家族へのアンケートまとめ】](#)

グループワーク

【グループワークの事例】

一人暮らしの南丹花子さんは、要支援2の要介護認定を受け、デイサービス週2回、ヘルパー週1回、歩行器レンタルを利用しています。子供は息子と娘がいますが、それぞれ離れて暮らしています。

今回、行き来をして世話をしていた娘さんが入院することになったのをきっかけに、「花子さんの生活で困りそうなことは何か、近所や地域でお手伝いできそうなことはあるのか」を参加者それぞれの立場で、普段の暮らしの中でできそうなことを話し合いました。

○グループワークの意見

【情報共有・ネットワーク】

- ・介護保険事業所と地域が情報共有する。
- ・ふれあい委員、民生児童委員、社協などで情報共有、ネットワーク作り。
- ・普段から近所と家族とつながりを作っておく。

【見守り】

- ・花子さんが不安になっていると思うので、声を掛けに行く。
- ・花子さんの様子を伺いに行く。（民生委員、ふれあい委員、サロンに誘う。）
- ・様子を見てもらうように、息子さんから近所や隣組に願います。
- ・花子さんの携帯電話に近所の人番号を入れておいて、繋がりがやすくする。
- ・近くにいる親戚関係にも相談してみる。
- ・本人自身も近所付き合い、サロンの参加でみなさんとつながりを作っておく。

【生活支援】

- ・配食サービス（民間の配食サービスを含めて）、使える手段を教えてあげる。
- ・宅配サービスの注文のお手伝い。
- ・移動販売の時間をお知らせしたり一緒に買い物に行く。
- ・自分の買い物のついでに必要な物を買ってきてあげる。
- ・ゴミ出しのお手伝いをする。

【介護保険サービス】

- ・追加のサービスの検討をケアマネに相談する。
- ・保存の効く食材で調理できるものを考える。
- ・本人の出来ることと出来ないこと見極め、生活上の工夫を助言する。
- ・緊急のショートステイを活用する。
- ・サービス利用時に体調や服薬等の確認をする。

【その他】

- ・制度上できないことがあることがわかった。
- ・自分にできることだけを手伝う。
- ・地域に合った方法で・地域にできること、家族がすることを整理する
- ・本人からの「困っている」の発信が必要、発信に気づくことも必要
- ・声を掛け合う（同世代、近隣の人、民生児童委員、ふれあい委員）

○ 参加者からの感想

- ・地域ケアの重要性を感じました。
- ・民生児童委員・ふれあい委員・社協など各組織間の情報共有が必要だと感じた。
- ・改めて普段の見守りで注意して見ておかなければならない事がわかった。
- ・地域それぞれの立場でつながり合うネットワークが必要だと感じました。
- ・地域として、何が出来るかを考えるきっかけになったと思う。
- ・今、何をすべきか、何に困って何が必要で等々、我々委員でなく例えば一人暮らしの方の意見等々を聞くとよくわかる気がする。

○ まとめ

今回の会議では、短い時間ではあったが、参加者同士のグループワークを通し、お互いの役割や考えを知り、顔の見える関係を築くことができた。

グループワークの意見や感想などから、今後に向けて次のように整理した。

- ① 各町もしくは各地区で民生委員、ふれあい委員、社協のネットワーク会議や地区別懇談会の開催など、情報が共有できる場を継続していく。
- ② ふれあいサロンに多くの人に参加し、日頃からの近所づきあいを深める。また、サロンが、見守り役となるような活動を続ける。
- ③ 家族と民生委員、ふれあい委員が、お互いを知る機会をつくる。